

令和6年度学校経営計画

狛江市立狛江第二中学校
校長 植村 多岐

I 教育目標

互いを認め合い共に生きていくことを意識し、感動する心を持ち、未来への夢や目標に向かい、強い意志で自らを律しつつ、その実現に努めるとともに、我が国と郷土を愛し、正義感や公正さを重んじ、持続可能な社会の創り手としての生きる力を身に付けた生徒の育成を図るために次の目標を定める。

1 自主自律「自ら学び考え、自らを律しつつ、主体的に行動する生徒」

⇒（問題発見・解決能力）

※自主性・主体性を重視し、本校の全ての活動で受け身にならず、失敗を恐れずに新しいことに挑戦する姿勢。また「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」問題を発見し、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、プロセスを振り返って次の問題発見・解決につなげていく力。

2 相互敬愛「自他の生命を尊重し、相互に高め合う生徒」

⇒（人間関係形成能力）

※互いに敬意、思いやりを持ち、互いのよさを生かして協働する力や将来社会に出た時、多種・多様な人と折り合いをつけながら課題解決できる力。また、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさなど（⇒「学びに向かう力、人間性等」）
※キャリア教育で育成すべき4領域の中の1つ：「人間関係形成・社会形成能力」＝多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

3 意志と実践「夢や目標の実現に向け、強い意志を持ち、前向きに実践する生徒」

⇒（実践力）

※「情報活用の実践力」、「道徳的実践力」、「教科における実践力」、「特別活動における自主的で実践的な態度」等を身に付け、自分の将来に夢や目標を持ち、自立に向け、自信をもって努力できる力。

II 学校経営の理念

○学校教育目標（目指す生徒像）の具現化に向け、中学校が義務教育9年間における最終段階という認識のもとに、「自分の将来に夢や目標を持ち、自立して卒業できる生徒の育成」を基本姿勢とする。

そのために自尊感情や自己肯定感の育成し、自信をもたせることで、より「主体的に行動できる生徒」の育成を目指す。

○教育目標（めざす生徒像）の具現化を、「自立」・「共生」の2つの視点を重視し、生徒にとって安心・安全で認められ、楽しい体験ができる教育環境の充実を図る。

人工知能（生成AI）の進化をはじめとした技術革新、グローバル化の進展等ともない、社会の構造的変化が急速に進みつつある。このような未来社会を生徒が自立した人間としてたくましく生きていくためには、必要な知識や技術・思考力、判断力、表現力に加え、自ら進んで学びに向かう力、主体性を身に付ける必要がある。これらの調和がとれた人材を育成するのが学校の役割であるにとらえる。

また、人口減少を見越したよりグローバルな社会の中では、自分とは異なる価値観や考え方等、多種多様な人と折り合いをつけながら課題解決する場面がこの先多く訪れることも予想され、他者と協働して課題解決していくこと、すなわち他者と共に生きて行く「共生」の精神を育成する場が学校の役割であるにとらえる必要がある。

Ⅲ 教職員の基本姿勢

- 1 人権尊重・人格尊重・生命尊重の人権第一の学校づくりを教職員がチーム一丸となって行い、「誰もが安心して過ごせる学校づくり」に努める。
- 2 生徒がもっている可能性を信じ、生徒に期待し、寄り添い、共感することを基本姿勢とする。
- 3 生徒とともに自ら学んでいく姿勢をもつ。～進みつつある教師のみ、人を教える権利あり～時代の変化に対応するため、常識や思い込み、慣例にとらわれず、新たなことに挑戦し、進化し続ける。そのために、常に社会に目を向け、様々な分野での知見を広めていく。
- 4 各教科・領域において、主に「学ぶ楽しさを感じさせる授業」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研究と学習習慣の確立から「確かな学力を身に付ける学校づくり」を行う。
- 5 学校の特徴や長所は、生徒同士が互いに刺激し合い、影響し合って成長し、切磋琢磨できる場である。助け合い、支え合う学校文化を大切にし、生徒が他者との関わり（繋がり）の中で「認められ・感謝される」体験等を経験させることで、自尊感情や自己肯定感を高め、生徒一人一人の活動への意欲や自信につなげ、生徒が「自己実現できる学校づくり」を行う。
- 6 生徒を第一に考え、常に生徒の実態を捉え、特に迷った時は、「生徒のために一番良いことは何か」という視点で判断する。また、教職員同士の「報告・連絡・相談」を密に行う。
- 7 人に役立ち、人から喜んでもらえることに幸せを感じる生徒の育成を目指し、ボランティア活動や体験を通して、自己有用感や自己肯定感を高める。
- 8 保護者や地域の思いや期待に応え、協働して生徒の成長を支援する姿勢をもつ。
- 9 特別支援教育の視点を持ち、生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、「ユニバーサルデザイン教育」＝「すべての生徒に分かりやすい教育」を進める。

Ⅳ 目指す学校像

○生徒一人ひとりが目を輝かせ、何事に対しても前向きに活動できる学校

- 1 人権尊重を第一とし、生徒同士や教員が互いに感謝し合い、笑顔があふれ、**誰もが安心して過ごせる学校**
- 2 落ち着いた学習環境のもと、生徒たちが意欲と関心をもって主体的に取り組むことのできる授業が展開され、**確かな学力を身に付ける学校**
- 3 生徒たちが相互に高め合い、「共生」の心で生き生きと活動できる学校行事・生徒会活動・部活動等を通して自己有用感を高め、**自己実現できる学校**